

令和 7 年 2 月 28 日

東員町議会

議長 伊藤 治雄 様

広報広聴常任委員会

委員長 広田久男

研 修 報 告 書

研修期間	令和7年1月27日（月）～ 1月28日（火）
研修（視察）先	・和歌山県かつらぎ町議会 ・奈良県王子町議会
目的（テーマ等）	「議会広報広聴活動について」
参加議員名 （複数の場合）	広報広聴常任委員会委員5名 伊藤まり、三林 浩、片松雅弘、山崎まゆみ、広田久男
資料添付の有無	有 ・ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

＜研修概要、内容＞

視察研修先(自治体)の概要

町 名 項 目	かつらぎ町 (和歌山県)	王寺町 (奈良県)	(参 考) 東員町
広さ(面積)	151.69km ² 【東員対比 6 倍】	7.01 km ² 【東員対比 0.3 倍】	22.68km ²
住民数(人口)	15,299 人 【東員対比 0.6 倍】	23,592 人 【東員対比 0.9 倍】	25,732 人
議 員 数	13 名	12 名	14 名
広報づくり担当委員会 委員会の議員数	議会だより編集特別委員会 6 名	議会広報編集委員会 6 名	広報広聴常任委員会 6 名
議会広報コンクール 受 賞 歴 (順位)	令和 3 年(8 位) 令和 5 年(8 位) 令和 6 年(5 位)	令和 5 年(10 位) 令和 6 年(10 位)	なし

I. かつらぎ町議会 1月27日(月)

I-1.研修概要および成果

かつらぎ町議会「議会だより編集特別委員会」の東芝弘明委員長から、「議会だより」をどのように作成しているのか、「編集体制・編集方針・編集の流れ」など、注力しているポイントを交えながら説明を受けました。大変参考になりました。

1)住民こそが主役の立場で編集する

「住民にわかりやすく、そしてリアルに伝える」を基本に、『①見出し ②リード文 ③本文 ④写真 ⑤キャプション』を高次元で融合し、記事を立体的に伝える、読みたくなる紙面づくりの作成に取り組んでいます。

2)研修と視察で学んだ良いところは TTP(徹底的にパクリ)

寄居町の視察から、30 名くらいの住民が登場していることを学び、たくさんの住民にインタビューを行ない掲載することを実行しています。

委員会で記事に関連した住民を探し出し、あまり知られていない人や若い人などに登場してもらおうと、大変な苦勞をしています。

その他の TTP 事例は、ページ下部に住民意見や傍聴アンケートなどを記載する。議決結果のとりまとめ表など。

3)議会と住民を繋ぐ議会モニター制度

平成 29 年から開始。目的は町民の意見や提案を出してもらうこと、議会に関心を持ってもらうこと、ならびに議員になる人材の裾野を広げることでした。議員に出てもらった実績があるようです。

公募と団体推薦で始めましたが年々応募者は減ってきており、議員が直接声掛けを行ったり、各種団体にも協力依頼をしているようです。

4)優れた委員長は優れた才覚を持つ

視察研修後に調べて分かったことですが、現在の東芝弘明委員長は平成 30 年から委員長を務めており、就任 3 年後(令和 3 年)と 5 年後(令和 5 年)に議会広報コンクールで入賞を果たしています。

委員長としての才覚・リーダーシップに加え、広報誌づくりの知識と才能・熱意を持ち合わせた人物だと感じました。

5)編集デザインはプロに任せる手段もあり

(先進地視察先)寄居町では紙面の編集デザインをプロの印刷業者に委託していることに衝撃を受け、令和 6 年の入札では紙面を模擬作成してもらい、編集デザインに優れた印刷業者を選定しました。「プロにまかせた結果、びっくりするほどフラッシュアップができた」とのことでした。

先日発表された議会広報コンクール令和 6 年度表彰で第 5 位に入賞していることから、確実に成果を上げています。

II. 王子町議会 1月28日(火)

I-1.研修概要および成果

王寺町議会事務局の職員と広報アドバイザーを務める村田大地さんに、議会だよりのリニューアルについて説明を受けました。

村田さんは平成 27 年(2015 年)に入庁、平成 28 年より広報担当となり、王寺町広報紙や町公式サイトのリニューアル、SNS の立ち上げなど、多岐にわたる広報改革を成功させる一方で、現在は全国各地で広報や DX に関するセミナー講演などを務めています。

1)広報づくりに優れた知識と才能を持つ職員が異動

村田さんは令和 5 年春(2023 年)から議会事務局に異動し、誰もが読みたくなる議会紙にするため、リニューアルに取り組み、その年の議会広報コンクールで 10 位入賞を果たしました。

この実績と研修時の巧みな編集テクニックなどの説明から、村田さんが持つ広報づくりの知識と才能は、只者ではないことを痛感させられました。

2)編集テクニックで広報は変わる

村田さんは、親しみやすく読みやすい編集テクニックをたくさん教えてくださいました。見習いたいテクニックとしては、

- ①編集テクニックを熟知せよ……自分に必要な情報が判断する時間は 0.3 秒。
- ②町民の参加……まちの皆さんが登場し、住民の声を積極的に取り入れる。
- ③脱報告書……文字ばかりの紙面では読まない。関心が高い案件に取捨選択。
- ④読みやすいレイアウト……視認性(見やすい)、可読性(読みやすい)、判読性(理解しやすい)を追求する。ユニバーサルデザインを極める。
- ⑤文字を少なく、写真を多く……読み手を第一に考え、記事は簡潔で中学生でも分かるような内容・解説をつける。

Ⅲ. 総 括

- 1) 委員会メンバー全員が「今回の視察研修はとても参考になった、刺激を受けた。」との評価でした。
両町議会ともに、『住民目線の読みやすい広報誌にする』ことを目的に、委員会メンバーがまちへ取材に繰り出し、それを裏付けされた編集テクニックで好感の持てる議会広報誌を完成させています。
- 2) 今回の視察研修先には議会広報誌の実力を、まざまざと見せつけられました。私たちが広報広聴常任委員会の向上意欲はどここの議会にも見劣りはしません。
東員町議会だよりは進化する途中段階であり、さらに高みを目指し、協力して精進して行きたいと改めて決意しました。